

上北沢桜並木通信 第3号

平成 16 年 7 月 25 日（日）午後 1 時 30 分から、上北沢区民センターで、「上北沢桜並木会議」立ち上げの会が行われました。地域の方々、烏山総合支所の方など、45 名が集まり、桜並木を皆で守っていくことが確認されました。いよいよこれから、具体的な活動へつなげていきます。



上北沢桜並木会議とは？

■**会の趣旨**：上北沢の桜並木は、開花時期の美しさもさることながら、季節ごとの変化は見る人の心を癒し、地域にとって誇れる将来に残したい財産となっています。しかし、この桜並木は近年弱りはじめています。7 月 18 日には、一本の桜が倒れてしまいました。すでに枯れて伐採してしまった木もあります。この貴重な財産を残すためには、地域のいろいろな人々の考え方、意見、知恵を集め、具体的な活動をはじめなければなりません。上北沢桜並木会議は、並木の維持保全に住民と行政の協働で取り組むとともに、これをきっかけとして地域のまちづくりを考え、「桜を見守るコミュニティ」をつくっていかうという取り組みです。

■**会の主な活動**：上北沢桜並木会議では桜並木を見守り、保全していくため、以下の活動を考えています。

- ・できるだけ多くの地域にお住まいの方の声を聞き、意見交換を行うための場（定期的な会議）を設けます。
- ・桜並木を見守り、保全していく活動を多くの方々に広く知っていただく活動を行います。
- ・桜並木の保存・育成のため、桜の生態を学べる活動（専門家を招いた勉強会など）を行います。
- ・桜並木の清掃活動や桜まつりなどの活動と連携します。

※この取り組みは「公益信託世田谷まちづくりファンド」の助成を受けています

※この取り組みは、地元有志によって始められました。営利活動、思想・政治的活動などとは一切関係がありません

連絡先；和田和典 3302-6959 佐藤信二郎 3290-2660

上北沢桜並木会議立上げの会 会議要旨

日 時：平成 16 年 7 月 25 日 13:30~16:00

場 所：上北沢区民センター

参加者：区 民 36 名

行政関係 9 名 計 45 名

司会（福永）

和 田：会の趣旨説明

佐 藤：現状説明と活動計画

- ・「烏山ネット・わあ〜く・ショップ※」の活動がきっかけとなってスタートし、ファンドの助成を受けることになった経緯や、今までの活動を説明
- ・今後の計画として以下を提案
- ・定例会、通信ニュースの発行、桜の実態調査とセミナー、桜祭りの支援、クリーン作戦、HPの立ち上げ等

福 永：上記の補足説明（烏山ネット・わあ〜く・ショップについて／まちづくりファンドについて／地域風景資産について／桜並木に関する住民アンケートについて／今回の集会の呼びかけについて 等々）

石 井（樹木医 上北沢 4 丁目在住）：桜の現状の概要説明

<意見交換>

- ・ファンド助成を受けているとの説明だったが、どのような用途に使うのか？
→（桜並木会議 佐藤） 勉強会、広報HP作成等に使用するが、当然足りないので会員から会費を徴収して進めたい。今後どうすれば良いか学習していきたい。
- ・2車線ある車道を狭くして歩道を広くすれば、桜にとって良い環境になるのではないか。
- ・極端な言い方をすれば、この道を遊歩道にしたらどうか。
- ・弘前の桜は何百年も生存している。遊歩道にしても人が歩くと根が堅くなるのではないか。
→（樹木医 石井） 踏圧ということから考えると、アスファルトは根に平等に圧力がかかるので必ずしも悪いとはいえない。
- ・アンケートにあった「道路と一体化整備」と

はどういうことをイメージしているのか？

→（桜並木会議 福永）当初は、区で排水溝の整備が済んでいないためそれを含めて将来的に道路を整備するときに桜並木と一緒に考えていくという意味であった。桜並木の整備を幅広く考えていきたい。

・桜の根本のマスのおおきの基準はあるのか？
→（区 高木） おそらく植栽の面から標準寸法があると思う。桜一本一本のことは考えてはいない。今後は、この会の中で勉強してどういう形にすればよいか工夫していきたい。

・（樹木医 石井） この桜並木について基本的な認識をご説明しておきたい。この桜並木は再生可能だ。なぜならば、すべてが70年たっているわけでもないし、同じ70年たっている木でも健康状態にはバラツキがある。若くても健康状態がよくない木もある。一本一本の木の状態を見ながら植え替えを検討する必要がある。また、根を囲っているマスは広くすれば良いというものではない。桜の根は、葉の大きさと同じくらいに土にはっている。根は幹のところよりも先端にあるところが重要な役割をしている。



※烏山ネット・わあ〜く・ショップとは

- ・烏山地域（世田谷区烏山総合支所管内：給田、上祖師谷、北烏山、南烏山、粕谷、八幡山、上北沢）のまちづくりについて区民と区、事業者と一緒に考え、バリアフリーの整備などを実現していこうとする取り組みです。人と人をつなぐ「ネットワーク」と、活動しながら検討する「ワークショップ」をかけてつけた名前です。
- ・『できることから実現しよう』を合い言葉に、これまで、駒大グランド前バス停整備や、音声信号機設置、歩道の段差解消などの整備を実現してきました。
- ・現在、区民や区職員約40名が月1回の定例会を開いて情報交換や意見交換を行っています。

<今後の進め方>

○テーマを決めて活動したい

- ・議論が錯綜しているので、テーマごとにチームを作り、ひとつひとつステップを踏んで進むべきだ。桜の木の本一本の処方箋を作るべきだ。
- ・この機会を上北沢のコミュニティづくりととらえ、次世代に結びつけていきたい。また、行政へのパイプとしても役立てたい。
- ・この会の目的はコミュニティづくりであり、ひとつの目標に桜並木の保全があると考えている。会則として案を考えたが細かいところがまだ詰められていないので、提示しなかった。また、活動をしていく上でテーマごとに分科会を作って進めていきたい。
- ・分科会としては、ホームページの立ち上げ、クリーン作戦、勉強会、セミナー等を考えている。

○活動費について早めに工夫を

- ・ファンドの卒業生として言いたいのが、ファンドで3年保証されていると思うのは間違いである。活動資金はすぐなくなるので大変である。個人負担にならないように「桜を学ぶ」ことをテーマにした学習会を開いて活動資金にしたら良いのではないか。

○具体的な活動の内容は？

- ・桜の話は他の場所（成城とか）でも多く聞いている。そういうところと連携して、一緒に勉強していくつもりだ。
- ・学び、情報を発信し、清掃活動も行うことを当面のテーマとしたいが、労力との関係もあるので、基本的にどう動くのかについては今後詰めたい。

○桜の現状把握は？

- ・桜の現状把握することに関して、区の協力は得られるのか。
- ・基本的には我々（桜並木会議）が行うものと考えている。
- ・区としても一本一本の状況は把握したい。方向が決まれば相談したい。植栽に関しては予算や時期もあるので、すぐというわけにはいかない。

○会を進める中心的な役割の人が必要

- ・いきなり分科会で検討をといても進まない。てきぱき交渉する機能をもつように代表者が話し合ったらどうか。
- ・実態調査、学ぶことはすぐにでも必要だ。広報とか桜祭りとかは手段だけの問題で、後でも良いと思う。
- ・中心的な動きをどうするかについて早急に協議したい。

○参加者は幅広く

- ・多くの人に門戸を開くべきだ。
- ・当面8月10日 18時30分からこの場所で次回会議を開催しますので、出席できる方は出て下さい。今日来られなかった人にも声をかけて下さい。

○次回の活動は9月4日に現場で桜を見ながら

- ・9月4日(土)にセミナーを開催しましょう。桜の下でやらないと意味がないので、10時～16時ということではいかがですか。
- ・すべての時間にすべての人が出る必要はなく、多くて1回・1時間10人程度が良いと思います。
- ・9月4日(土) 10時 昭和信金前集合とします。

以上



(参考) 桜並木会議研究会(=班)の活動内容の案

どんな活動をするにも、住民のみんながこのまちを愛し、このまちを守るために一緒にやろうと考えることが大事です。

このまちは、静かで住みやすい落ち着いたまちですが、最近、ちょっと元気がなくなっています。桜と一緒にまちも、年をとってしまったようです。

高齢者から若者までが一緒になってこの町を愛し、楽しく生き生きと活動していくために、桜並木のこと、まちのことをよく知り、共通の認識を持ちたいと思います。

次のような具体的な活動を考えています。この内容についてもご意見をいただけると幸いです。

| 研究会 | 活 動 内 容 (例示) |
|-----------|---|
| 桜の木班 | <ul style="list-style-type: none"> ・植物としての桜について、共通の常識をもつこと、他地域で同じような活動をしている人達と連携すること等、桜の木全体について学びます。 ・桜の勉強会・セミナー：当面9月4日、石井さんをお招きして、桜並木のすべての木を見て診断する予定です。 ・桜診断書の作成：桜の木一本一本について番号をつけ、各々のカルテを作成します。 ・他地域の同じような活動と連携：世田谷区内の活動（成城地区、桜新町等）や世田谷区以外（千代田区、東京都(高尾山)等)の活動を知り、連携を図ります。 |
| 桜のまち文化研究班 | <ul style="list-style-type: none"> ・写真や文献、聞き書きなどの記録をもとに、歴史の整理をします。桜並木（桜通り）、分譲地、駅、町、教会、住人それを展示やデータベース化して住民に知ってもらいます。 ・楽しく歩けるまち、こんな場所発見いいなと思う場所、気になる場所などをリストアップし、まちの回遊を考えます。 ・桜並木沿道だけでなく周辺へと広げ、町全体が一体になる活動へつなげます。（たとえば「桜と庭のまち」というテーマで、上北沢の緑を集めるとか、桜並木、家の生垣や庭、保存樹、公園、休憩スポット・・・） ・文化中心のまちづくり：文化的活動をされている方が多く住んでおり（婦人活動、児童文庫の活動、宗教家、音楽家、芸術家、舞踏家、童話作家・・・）、これらの方々といろいろなかたちでコンタクトをとり、参加していただき、まちづくりへ生かしていきます。 |
| 桜みちづくり班 | <ul style="list-style-type: none"> ・桜が植栽されている場所は道路であり、道路はそれ自身いろいろな役目があります。桜並木を守り育てる上で、桜と道との共生を幅広い視点で考えます。 ・バリアフリー対策、駐輪・駐車の問題解決、駅や踏切との関連等、様々なことがらを考えます。（やさしい道づくりと植物としての桜の位置づけ） ・「みち」をつくることは「まち」をつくることであるとの視点のもと、長期的な道づくり、まちづくり計画・方針を把握し、桜並木との関連性を検討します。 |